



2017年3月26日(日)まどかコンサート  
中国楽器 二胡との出会い



この春小学校に入学する  
男の子も照れながら記念撮影

コンサート当日は雨にもかかわらず、近隣の方々も含めて48名が集いました。今回は「中国の楽器・二胡との出会い」、演奏は酒井和嘉子さんをお願いしました。

見学者が素通りしてしまうような、介護施設とは思えない民家は地域の方たちにもわかりにくいようで「迷っちゃったわ」という声もありました。演奏中、目頭を押さえる人、口ずさむ人、2弦の楽器が奏でる、引き込まれるような音色を堪能しました。



## 縁・えん・ふち・へり・縁食・食縁

春のえんの庭は、にぎやかです。杏の花、水仙、二輪草、菜の花、チューリップと次々に咲き、筍、山椒の芽が出て、三つ葉が背丈を伸ばし。中でも筍は若竹煮や筍飯になって、えんの配食弁当利用の方々にも届けられます。季節の贈り物です。

そんな年度初めの4月は、さまざま変わり目でもあります。新座市では、介護認定要支援の訪問・通所サービスが、「新座市地域支援総合事業」に変わり、サービスを提供するのがヘルパーさんではなく研修を受けた地域住民になります。えんはこれまでどおり利用する方々が、安心して暮らしていけるよう力を尽くしたいと話合っています。

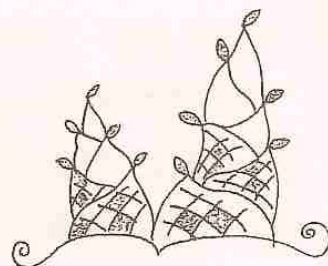
次期介護保険改正案の国会審議は、この通信が届く頃には終わっているでしょう。予防とリハビリで「介護を卒業」することが強調され、医療ケアが必要な重度者に重点化する。年収340万円以上ある利用者は3割負担になる。

「地域包括ケアシステムの実現」を目指す改定のはずなのに、「在宅で最期まで」実現に必要な在宅介護は薄くなる一方です。超高齢社会日本、これで大丈夫なのでしょうか。

さて、新しい試みが始まります。『だれでも食堂にいざ』です。開始までのいきさつは、3ページに代表になってくださった斎藤さんが書いてくださいました。これ以上仕事は増やせない、「でもね、やりたいんだな」とひそかに思っていたら、新しい出会いが新しい場を拓いてくれました。

そんな準備のさなかに、このような『子ども食堂』を、「孤食」と「共食」のあいだにある「縁食」と名づけた文章にであいました。筆者は藤原辰史さん（京都大学。農業経済学）。「縁」は「へり」とも「ふち」とも読みますが、「共」よりあっさりした関係。ふらっと立ち寄ってご飯を食べて、ひとときを過ごす。そういう場所なのだ。そこから何か始まるかもしれないし、それだけかもしれない。強制されることなく、誰もが行ってよい場は案外ない。

「縁食＝えんしょく」という読みも嬉しい。暮らしネット・えんの「えん」は、縁、円、宴、園、塩…、いろんな漢字に当てられますが、最初に浮かぶのはやはり「縁」です。介護を利用されるのは社会の真ん中ではなく、へり、ふちに生きる方々、「縁（えん）を大切に」という思いがふくらんだ春です。



（代表理事 小島美里）



2017年4月から

# だれでも食堂<sup>しょくどう</sup>

はじめます

## ～「だれでも」がつながる地域づくりを～

2016年3月、地域でソーシャルワーカーとして開業している私は、認定NPO 暮らしネット・えんが開いている認知症カフェの依頼を受けて、成年後見制度について皆さんに話をする機会を頂きました。事前の打ち合わせで【カフェ えんの森】をご案内いただいた私は、思わず「ここって、『子ども食堂』を開くのにピッタリですね」とつぶやきました。すると案内してくれていた小島さんが、くるりと振り向き、「私もやりたいと思っていたのよ！」と答え、そこからすべてが始まりました。

ソーシャルワーカーという仕事は、様々な困難や課題に悩んでいる人びとの相談に乗り、解決の方法を共に考える仕事です。お話を聴いていると、この困難の中でよくも懸命に生きていらっしゃる、とこちらが力をもらう場面も少なくありません。一方では、そうした「困った」は個人や家庭の中に閉ざされ、秘められている事も多いものです。しかし、困難な中で生活する人たちは、地域や社会が自分たちに無関心であることに失望を感じていることもあります。そして困難な状況と同じくらい、いやそれ以上、孤独は人を無力にします。

ひとりですらいな、と思った時、ちょっと気の抜ける場所が必要ではないか、そういう場があれば、難しい問題が解決しなくとも、また明日から暮らしていくことができるのではないかと思い、ひとつの「場」としての「食堂」を開設するに至りました。

暮らしネット・えんのこれまでの実践や、ともに話し合ったメンバーの想いをこめて、「子ども」に限定せず、「だれでも食堂」と命名しました。だれでもが気軽に立ち寄れる場所になればと願っています。小島さんとの出会いが、想いを形にするきっかけになりました。だれでも食堂がどうなっていくかまだ誰にもわかりませんが、どうぞよろしくをお願いします。



「だれでも食堂」は毎月最終日曜日 11:00～15:00(食事は12:00から)グループリビングえんの森にて行います。  
材料費:こども無料・おとな 300円

斎藤社会福祉士事務所  
社会福祉士 斎藤美弥子



## 「施設」ではない高齢期の「住まい」とは

### ～「高齢期の住まい研究」報告会～

“NPO 法人暮らしネットえん”は、地域に住む、病気や障がいによって生活に困難を抱えている人やお年寄りに必要な支援提供する「福祉実践者」であり、身近な地域で良質な文化活動を提供・提案する「デザイナー」であり、福祉現場の実態や



グループリビングえんの森

より良い社会の在り方を発信するための調査研究を行う「研究者」でもある。今回はその中でも「研究者」としての“えん”の活動を報告したい。

去る3月4日に“グループリビングえんの森”にて、『高齢者グループリビングの社会的普及に向けた実践的調査研究』（JKA補助事業）の報告会が開催された。この調査研究は、高齢になり身体状況が変化したときに「施設」と呼ばれる場所に入居することを前提とするのではなく、住み慣れた地域で仲間とのつながりを緩やかに継続しながら、生きがいを持って暮らせる場を社会に増やすことを大きな目標にしている。そして、その暮らしの場としてグループリビングという住まいの在り方に着目し、全国で小規模な単位で集まって暮らす場を提供している事業所の実態を調査し、良質な汎用性のあるモデルを社会に向けて提示することを目的としている。今年度は、大学教授や研究者とともに、代表小島と林（GHえん職員。立教大学コミュニティ福祉学部博士課程在籍）が委員会のメンバーとして共同調査に関わっている。

報告会当日、木の香り漂う“えんの森”には、グループリビングの運営者や居住者、そして行政関係者、研究者、など42名が集まった。調査対象となった11事例は、運営者の思いや建物や空間のデザイン、利用料など、それぞれが独自のスタイルを持ったものであるが、そのどれもが「魅力的」であると感じられた。しかし、そうした「魅力的」な住まいの場はそれほど多くないことも事実である。誰もが選択できるようにするにはどうすればよいか、継続して調査し分析する必要がある。この調査は3年計画で実施する予定であり、今年度はその1年目だ。来年度は対象事例を増やして調査をするとともに、いくつかのモデルを提示することを目指している。今後も「研究者」としての“えん”の発信に注目していただければと思う。

（グループホームえん／林 和秀）

※調査報告書が完成しました。必要な方は、暮らしネット・えんまでお問い合わせ下さい。





## 「感情記憶」に働きかける

2月中旬、十文字学園女子大で開催された伊東美緒氏の認知症ケア講座に初めて参加してきました。講座は「認知症を持つ方々は常に不安のなかにいる」ということを前提に進められました。「認知症の人は『何が』分からないか分からない。しかし『分からない』ということは分かる」と。自分が同様の状況に置かれたら…と考えると鳥肌が立ちます。このような方々の漠然とした不安を緩和するために私たち支援者（特に介護職員）は何が出来るのでしょうか。

伊東氏はそのひとつとして「感情記憶（認知症を持つ方々は、具体的な出来事は忘れてしまうが、その時の感情は残る。）」に働きかけることを挙げました。施設で実践する上でのポイントは、①職員から気にかけてもらっているという印象を残すこと、②無理はせずに余裕のある時に行うこと。この2点です。

受講後さっそく実践してみました。まずは険しい表情でいることの多いAさんから実践。Aさんはソファに座ると、「すみません。あの、何か飲む物くださる？」と職員に声をかけます。以前はそれから動いていましたが、講座後は「Aさん、何か飲み物を持ってきませんか？」と自分から声をかけるようにしました。同時に「お茶と牛乳とゼリーがありますけど、どれが良いですか？」等と言葉のキャッチボールを増やすように心がけました。会話中、Aさんはニコニコとしながら返事をしてくださいます。嬉しそうな様子に私自身も嬉しくなります。意識し始めてから約1ヶ月、未だにAさんの周りから利用者が居なくなると途端に落ち着きが無くなりますが、職員が近くに行くと表情が和らぐようになったような、そうでもないような。成果が得られたとは言い難いですが、Aさんの「不安」が「安心」へと変わるための一助となることを願い、これからも続けていきます。

私は利用者となり座り長々とお話をするのではなく、声をかける回数を増やすことと、その際に言葉のキャッチボールを増やすことを意識しながら実践しています。決して難しいことではありません。これを読んでくださっている皆さんも今日から一緒に意識してみませんか。

（グループホームえん／遠野瑞穂）

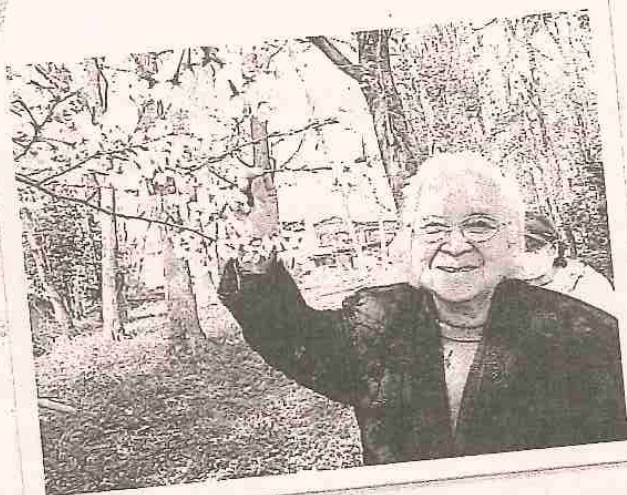
※伊藤美緒氏：東京都健康長寿医療センター研究所研究員  
「ユマニチュード日本支部」理事



# お花見特集

## ※デイホームえん※

4月4日(火) 栄緑道に満開の桜を見に行きました。見事に咲いた桜のトンネルの下で満面の笑み！！



## ※グループホームえん※

近くの桜を見に散歩。枝に手を伸ばし香りを楽しむ。ほんのり春の匂い。

## ※多機能ホームまどか※

まどかから栗原一丁目公園が普段の散歩コース。梅、桃、桜…季節の花を楽しんでいます。花の名前は利用者さんの方が詳しく、教えてもらっています。花の下でお弁当広げる人もいて、「今度はお弁当を持って来たいね」





＊ケアサポートえん＊

平成29年4月2日(日)お花見日和の中、利用者38人、スタッフ・ボランティア40人の参加で、栄緑道・喫茶ココにてお花見を行いました。今年の桜は3月が低温だったため開花が遅く3~5分咲きでしたが、花を愛で、えんの食卓の特注お花見弁当を食べ、皆さんに楽しんで頂きました。



『今年もお花見できて良かったね』

かんおう  
親桜や  
三人の美少女  
伴づれに  
木村真呂



いい笑顔！

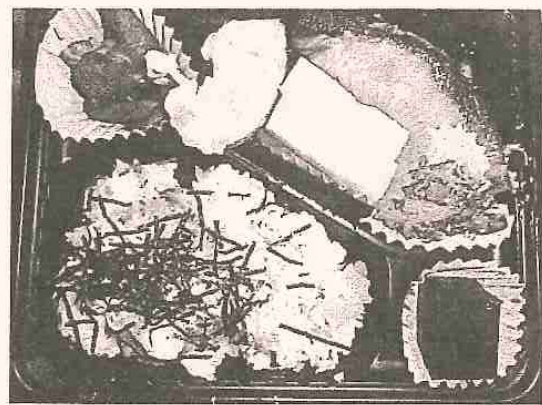


食後に一唄 ♪

散歩中に一句

＊えんの食卓＊

お花見弁当ということで、毎年テンションの上がるお弁当を・・・！と考えています。桜の下で食べやすく見栄えのするものと、心を込めて作っています。



とても好評でした！



手作りのおしながき



～第15回定例総会のお知らせ～

日時 6月18日(日) 中央公民館

総会 13:30～定例総会

記念講演 15:30～『子どもの貧困 大人ができること(仮)』

講師 村尾正樹さん

(公益財団法人 子どもの貧困対策センターあすのば事務局長)

「子どもの6人に1人が貧困」という日本。子どもがあきらめない  
ですむ環境をつくるためには何ができるか。スタートした「誰でも  
食堂」をご一緒に考える機会とします。



—増築工事のお知らせ—

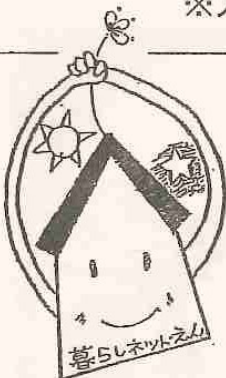
5月より増築工事を予定しています。ご迷惑をおかけ  
しますが、ご理解とご協力をお願い致します。



地域で暮らし続けていくために 2016年度新規・継続会員募集中!

正会員:1000円 賛助会員:3000円

※入会を希望される方は、事務局までご連絡ください。



■ 編集・発行 認定NPO法人暮らしネット・えん

〒352-0033 埼玉県新座市石神2-1-4

電話:048-480-4150 FAX:048-201-1311

Eメール:[npoenn@jcom.home.ne.jp](mailto:npoenn@jcom.home.ne.jp)

ホームページ:<http://npoenn.com/>